

第2部 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

第1章 調査対象世帯の概況

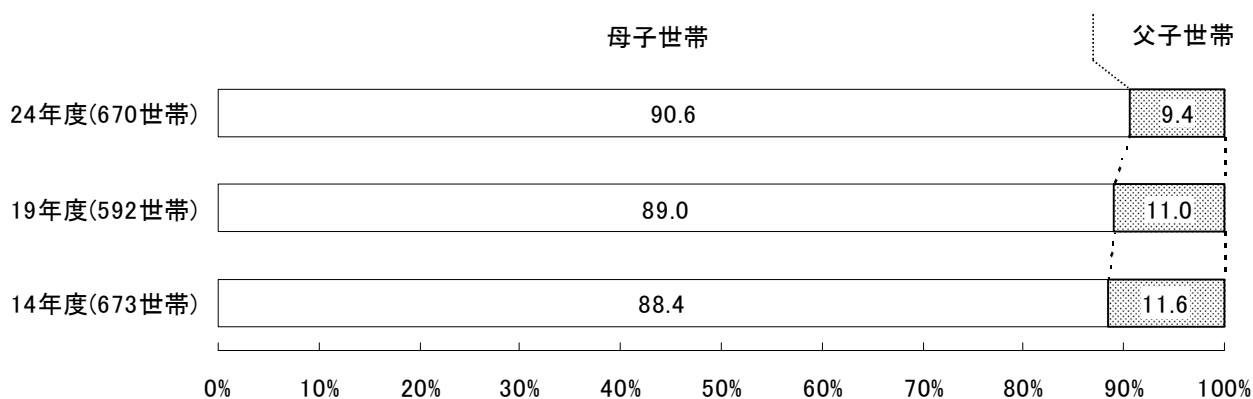
本章では、20歳未満の子供を養育するひとり親世帯670世帯の概況並びにその子供1,101人の概況について述べる。

1 世帯の状況

(1) 世帯類型－過去調査との比較

調査対象世帯の世帯類型（母子・父子世帯）をみると、「母子世帯」が90.6%で、「父子世帯」が9.4%である。（図Ⅱ-1-1）

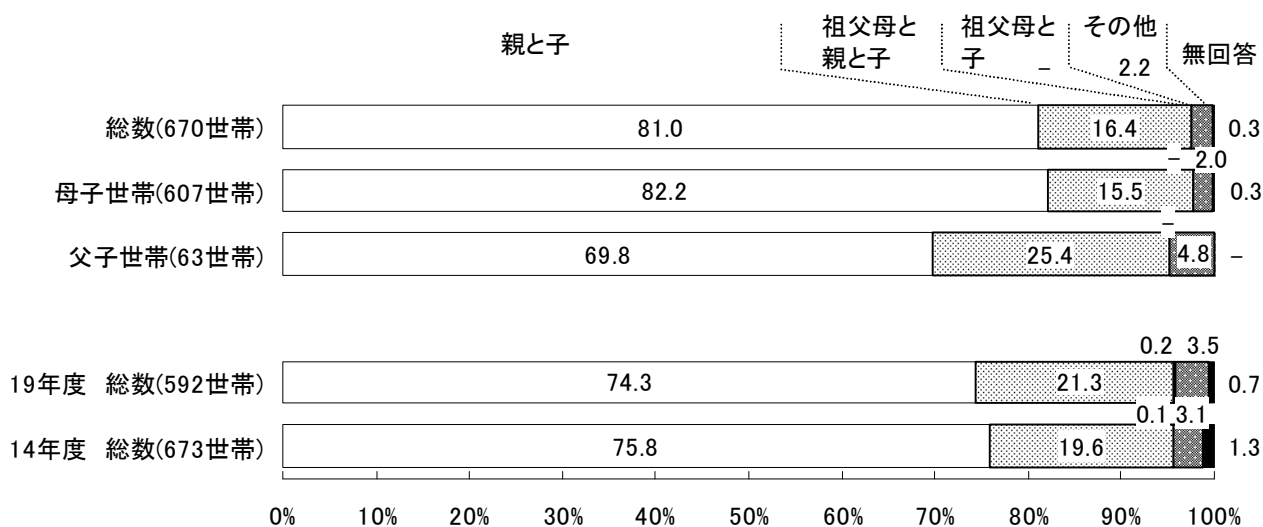
図Ⅱ-1-1 世帯類型－過去調査との比較



(2) 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

家族類型をみると、「親と子」の割合が81.0%で、19年度調査（74.3%）に比べて6.7ポイント増加している。母子世帯では、「親と子」の割合が、82.2%となっている。（図Ⅱ-1-2）

図Ⅱ-1-2 家族類型－世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

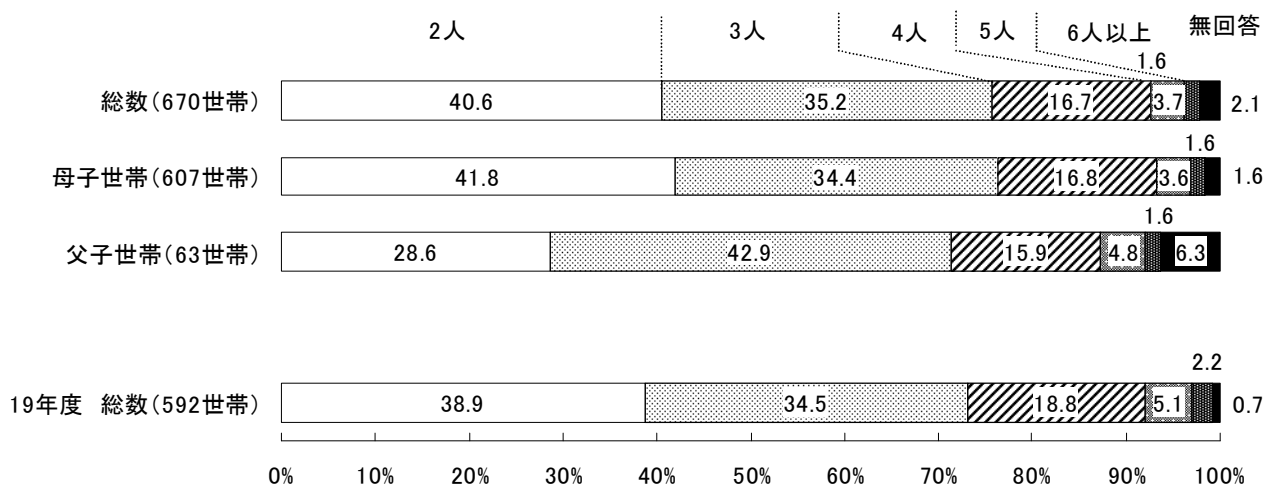


(3) 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

世帯人員をみると、「2 人」の割合が 40.6%で最も高く、次いで「3 人」の割合が 35.2%と高くなっている。

母子世帯では、「2 人」の割合が、41.8%と 4 割を超えている。（図Ⅱ-1-3）

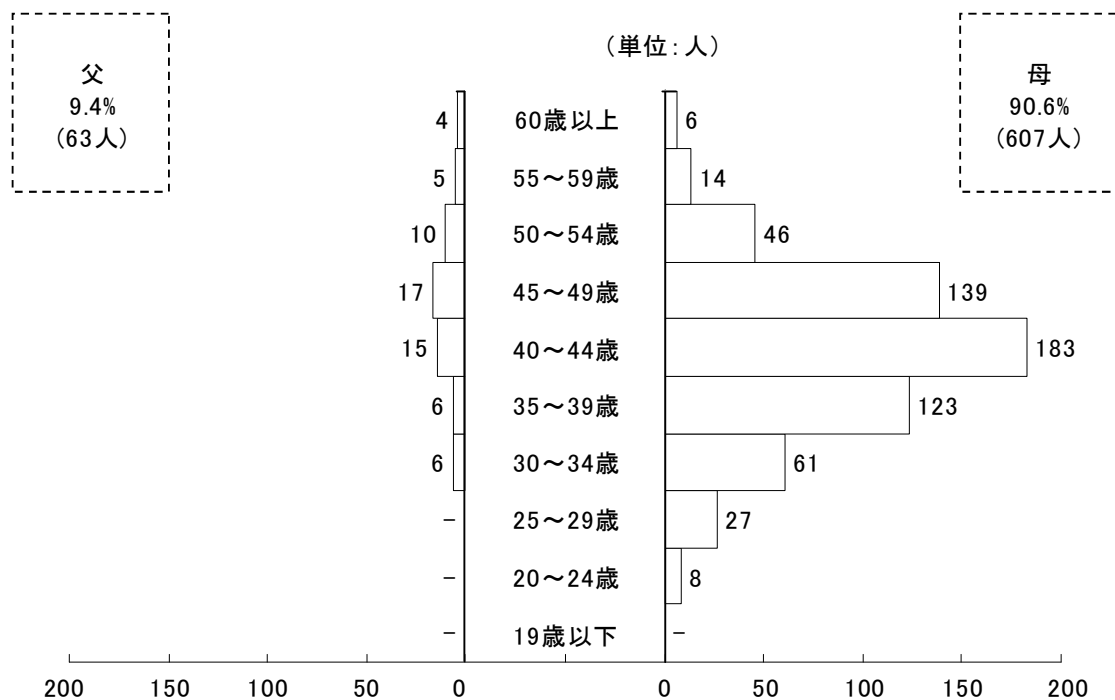
図Ⅱ-1-3 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別



2 父母の年齢階級

父母の年齢階級をみると、母親は「40～44 歳」が最も多く 183 人、次いで「45～49 歳」が 139 人である。父親は「45～49 歳」が最も多く 17 人であった。（図Ⅱ-1-4）

図Ⅱ-1-4 父母の年齢階級

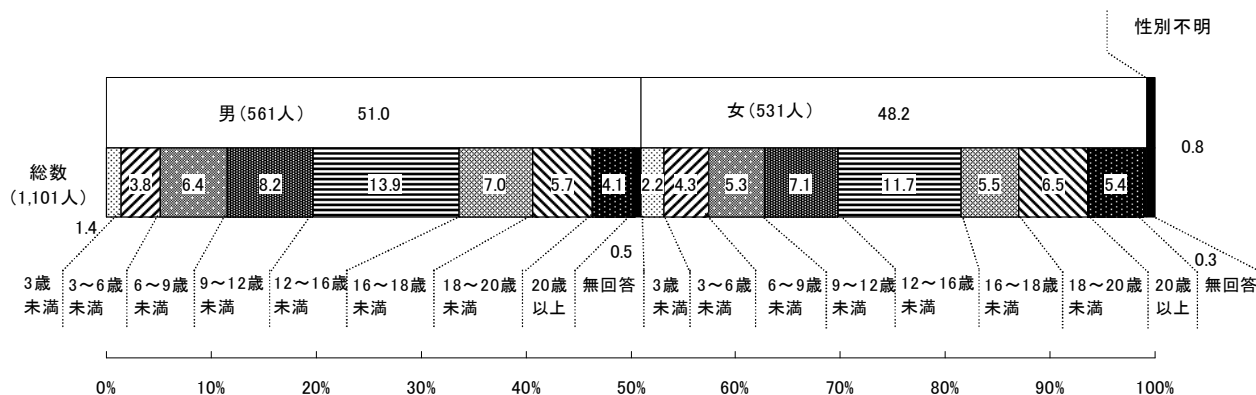


3 子供の状況

(1) 子供の性・年齢階級

対象世帯の子供の総数は1,101人で、男子561人、女子531人である。(図Ⅱ-1-5)

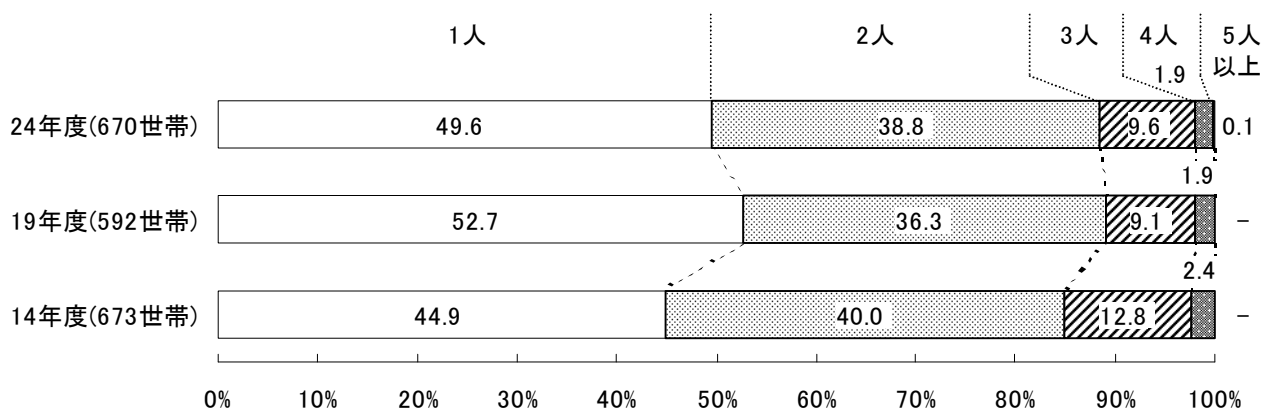
図Ⅱ-1-5 子供の性・年齢階級



(2) 子供の人数－過去調査との比較

子供の人数をみると、「1人」の割合が49.6%で最も高く、次いで「2人」が38.8%となっている。(図Ⅱ-1-6)

図Ⅱ-1-6 子供の人数－過去調査との比較

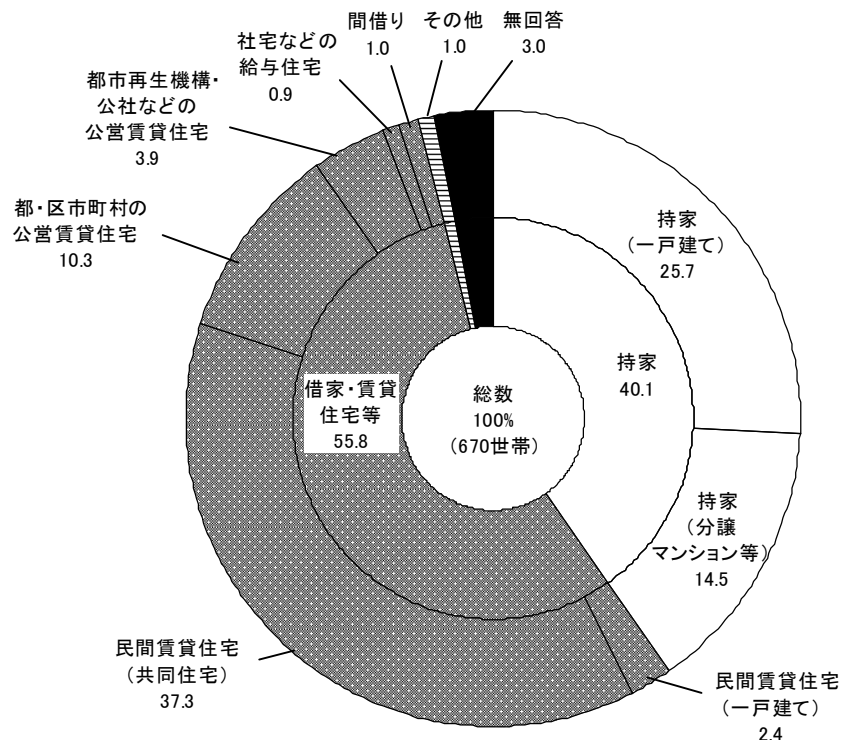


4 住居の状況

(1) 住居の種類

住居の種類をみると、「持家」が40.1%、「借家・賃貸住宅等」が55.8%となっている。(図Ⅱ-1-7)

図Ⅱ-1-7 住居の種類



(2) 住居の種類―世帯類型(母子・父子世帯)別

住居の種類を世帯類型(母子・父子世帯)別にみると、母子世帯では「借家・賃貸住宅等」が57.7%、父子世帯では「持家」の割合が58.7%となっている。(表Ⅱ-1-1)

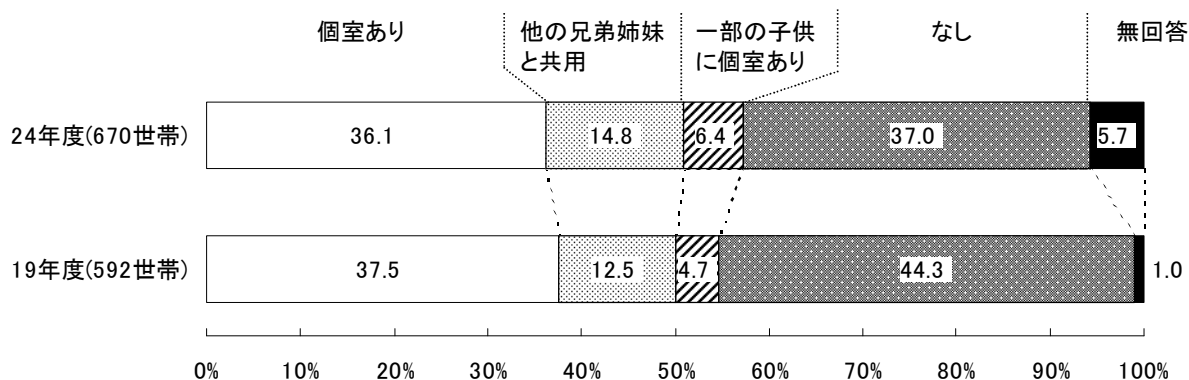
表Ⅱ-1-1 住居の種類―世帯類型(母子・父子世帯)別

	総数	持家	持家 (一戸建て)	持家 (分譲マンション等)	借家・賃貸住宅等	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (共同住宅)	都・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構・公社などの公営賃貸住宅	社宅などの給与住宅	間借り	その他	無回答
総数	100.0 (670)	40.1	25.7	14.5	55.8	2.4	37.3	10.3	3.9	0.9	1.0	1.0	3.0
母子世帯	100.0 (607)	38.2	23.7	14.5	57.7	2.5	38.7	10.9	4.0	0.7	1.0	1.2	3.0
父子世帯	100.0 (63)	58.7	44.4	14.3	38.1	1.6	23.8	4.8	3.2	3.2	1.6	-	3.2

(3) 子供部屋の有無－19年度調査との比較

子供部屋の有無を聞いたところ、「なし」の割合が最も高く 37.0%で、次いで、「個室あり」が 36.1%となっている。(図Ⅱ-1-8)

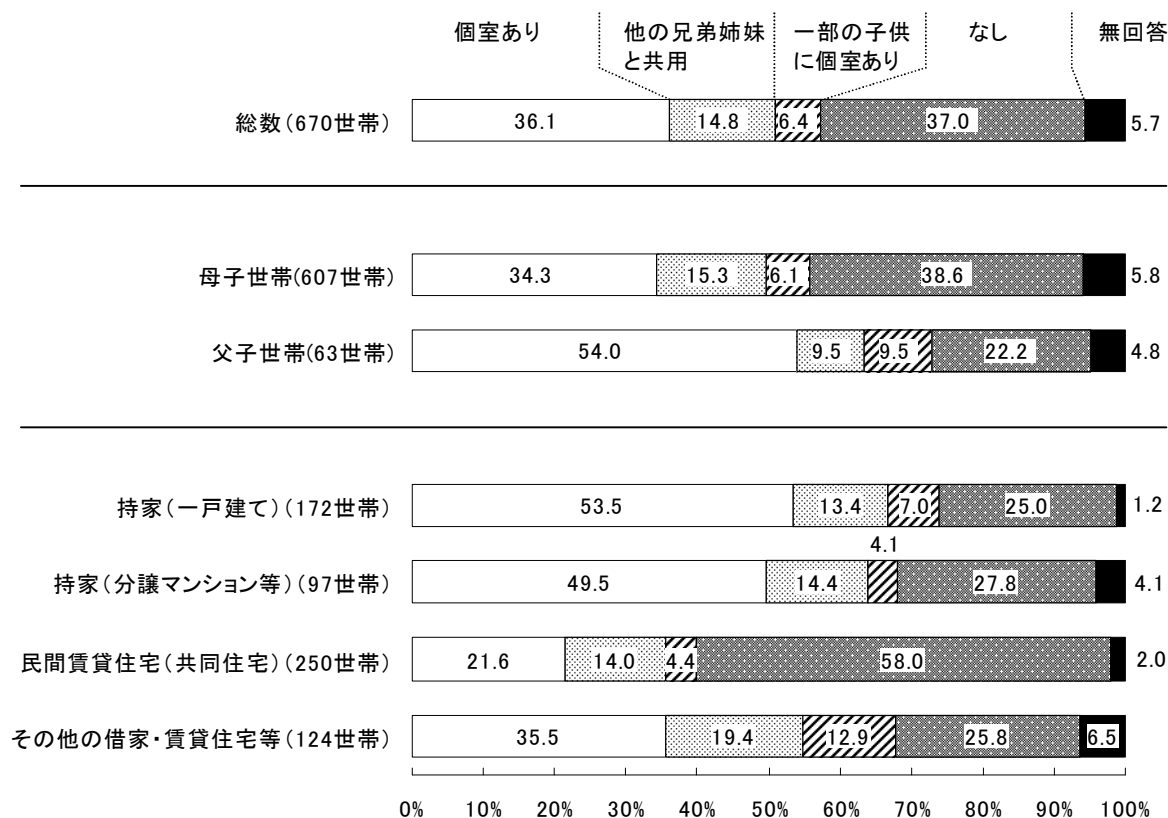
図Ⅱ-1-8 子供部屋の有無－19年度調査との比較



(4) 子供部屋の有無－世帯類型（母子・父子世帯）、住居の種類別

子供部屋の有無を世帯類型(母子・父子世帯)別にみると、母子世帯では「なし」の割合が 38.6%で最も高く、父子世帯では「個室あり」が 54.0%と最も高くなっている。また、住居の種類別にみると、持家(一戸建て)、持家(分譲マンション等)では「個室あり」の割合がそれぞれ 53.5%、49.5%と約半数であるが、民間賃貸住宅では「個室あり」が 21.6%に対して、「なし」が 58.0%と半数を超えている。(図Ⅱ-1-9)

図Ⅱ-1-9 子供部屋の有無－世帯類型（母子・父子世帯）、住居の種類別

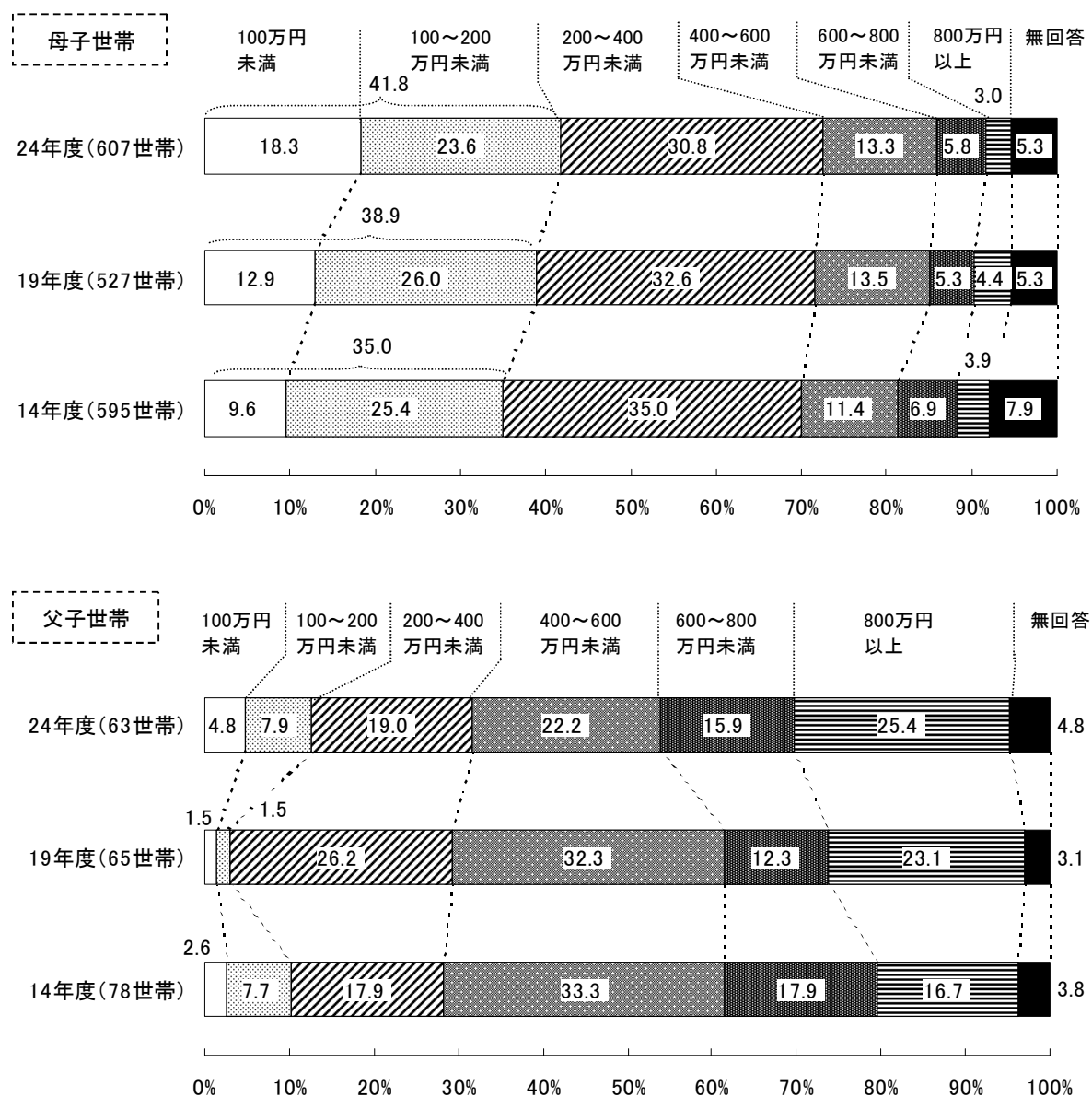


5 世帯収入の状況

(1) 世帯の年間収入－過去調査との比較

世帯の年間収入を過去調査と比較すると、母子世帯では、「100万円未満」の割合が18.3%で、19年度調査（12.9%）と比較して5.4ポイント増加している。また、「100万円未満」と「100～200万円未満」をあわせた200万円未満の割合も年々増加しており、24年度では41.8%と4割を超えている。（図Ⅱ-1-10）

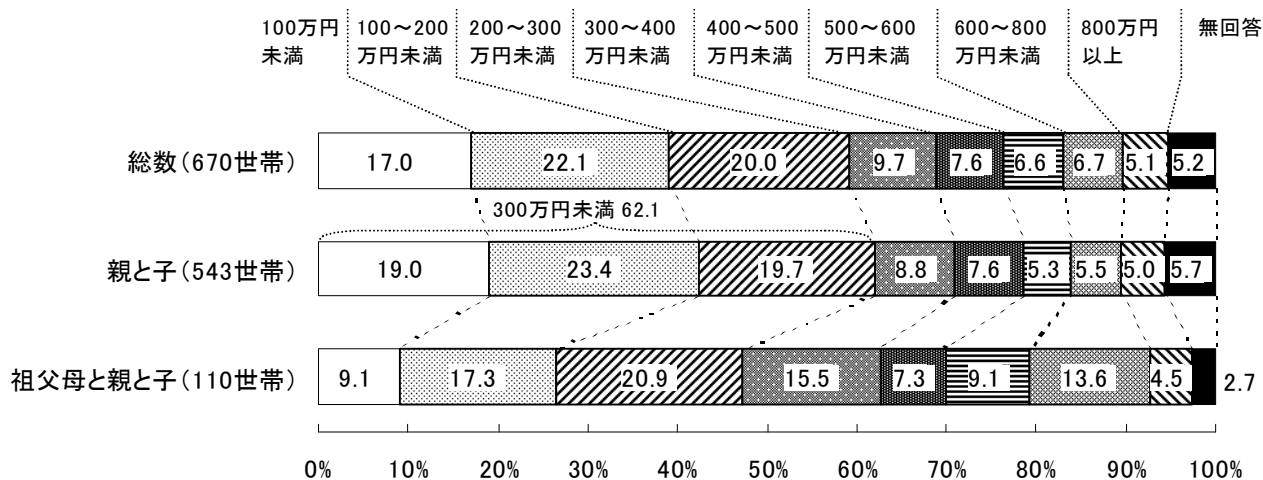
図Ⅱ-1-10 世帯の年間収入－過去調査との比較



(2) 世帯の年間収入－家族類型別

世帯の年間収入を家族類型別にみると、親と子の世帯では、「100～200 万円未満」の割合が最も高く 23.4%で、「300 万円未満」の世帯が 62.1%と 6 割を超えている。祖父母と親と子の世帯では、「200～300 万円未満」の割合が 20.9%と最も高くなっている。(図Ⅱ-1-11)

図Ⅱ-1-11 世帯の年間収入－家族類型別



(3) 主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

主な世帯収入の種類をみると、「賃金・給料」の割合が 73.0%と最も高く、次いで「生活保護」が 8.1%と続いている。(表Ⅱ-1-2)

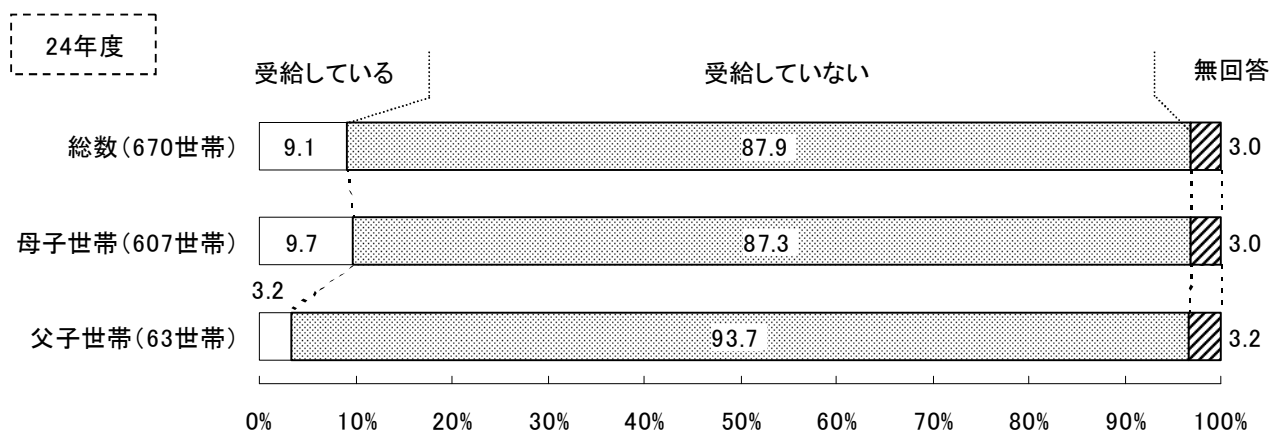
表Ⅱ-1-2 主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	賃金・給料	事業所得	家賃・地代・利子・配当	仕送り	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護	その他の社会保障給付金	雇用保険	その他の収入	無回答
総数	100.0 (670)	73.0	2.7	0.3	－	2.5	3.3	8.1	2.5	0.6	1.5	5.5
母子世帯	100.0 (607)	72.5	2.0	0.3	－	2.8	3.5	8.6	2.8	0.5	1.6	5.4
母子のみの世帯	100.0 (499)	71.9	2.0	－	－	3.0	3.0	10.0	2.6	0.4	1.8	5.2
その他	100.0 (106)	74.5	1.9	1.9	－	1.9	5.7	1.9	3.8	0.9	0.9	6.6
父子世帯	100.0 (63)	77.8	9.5	－	－	－	1.6	3.2	－	1.6	－	6.3
父子のみの世帯	100.0 (44)	75.0	9.1	－	－	－	2.3	4.5	－	－	－	9.1
その他	100.0 (19)	84.2	10.5	－	－	－	－	－	－	5.3	－	－
19年度調査	100.0 (592)	77.2	4.2	1.2	1.0	1.2	2.5	5.2	2.5	0.3	1.9	2.7

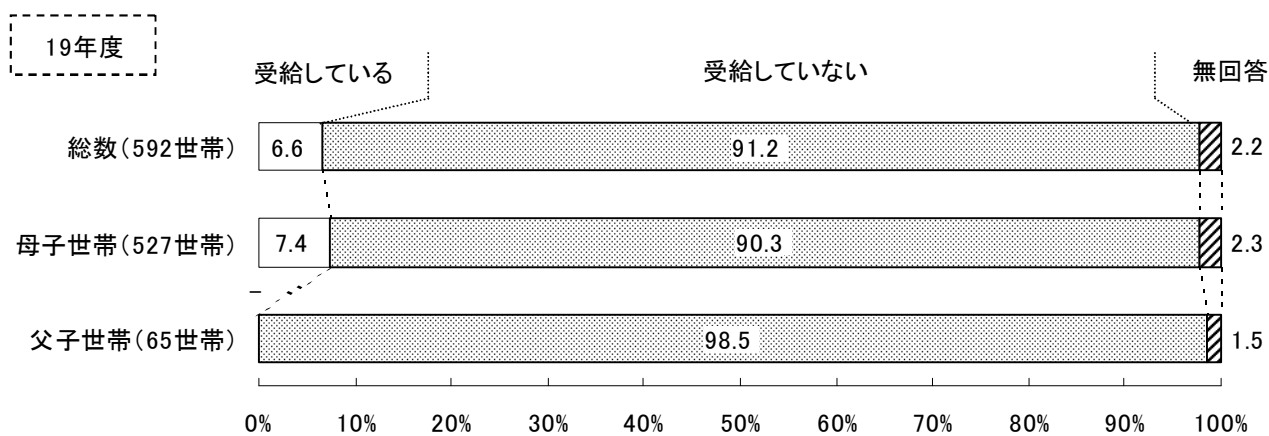
(4) 生活保護の受給の有無―世帯類型（母子・父子世帯）別

生活保護の受給の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では、「生活保護を受給している」世帯の割合が9.7%と、約1割となっている。（図Ⅱ-1-12）

図Ⅱ-1-12 生活保護の受給の有無（24年度調査）―世帯類型（母子・父子世帯）別



図Ⅱ-1-13 生活保護の受給の有無（19年度調査）―世帯類型（母子・父子世帯）別



参考 「母子・父子世帯の推移等」

都内の母子世帯は、平成7年から増加を続けていたが、平成22年には約5万9千世帯に減少した。父子世帯も、平成7年から微増を続けていたが、平成22年には約7千百世帯に減少している。(図 参考4)

母子世帯の母の年齢別推移をみると、35～44歳の割合が年々増加し、平成22年度では52.6%と平成7年(46.0%)に比べて6.6ポイント増加している。(図 参考5) 母子世帯の一番下の子の年齢別推移をみると、6歳未満の割合が平成12年以降減少している。(図 参考6)

図 参考4 母子・父子世帯の推移(東京都・全国)

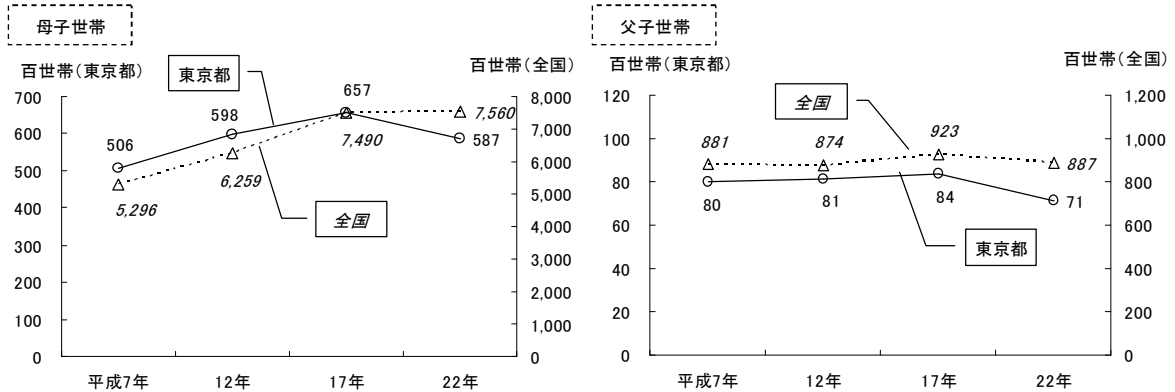


図 参考5 母子世帯の母の年齢別推移(東京都)

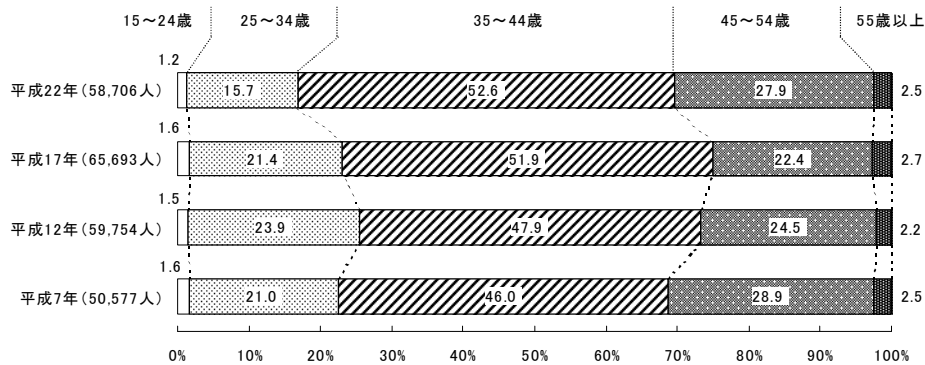
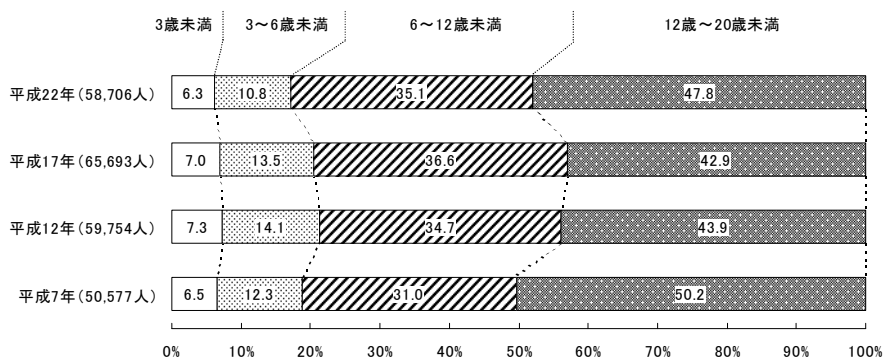


図 参考6 母子世帯の一番下の子の年齢別推移(東京都)



(注) ここでの母子(父子)世帯とは、未婚、死別又は離別の女親(男親)と、その未婚の20歳未満の子供のみから成る一般世帯(他の世帯員がないもの)をいう。

資料：国勢調査(総務省)

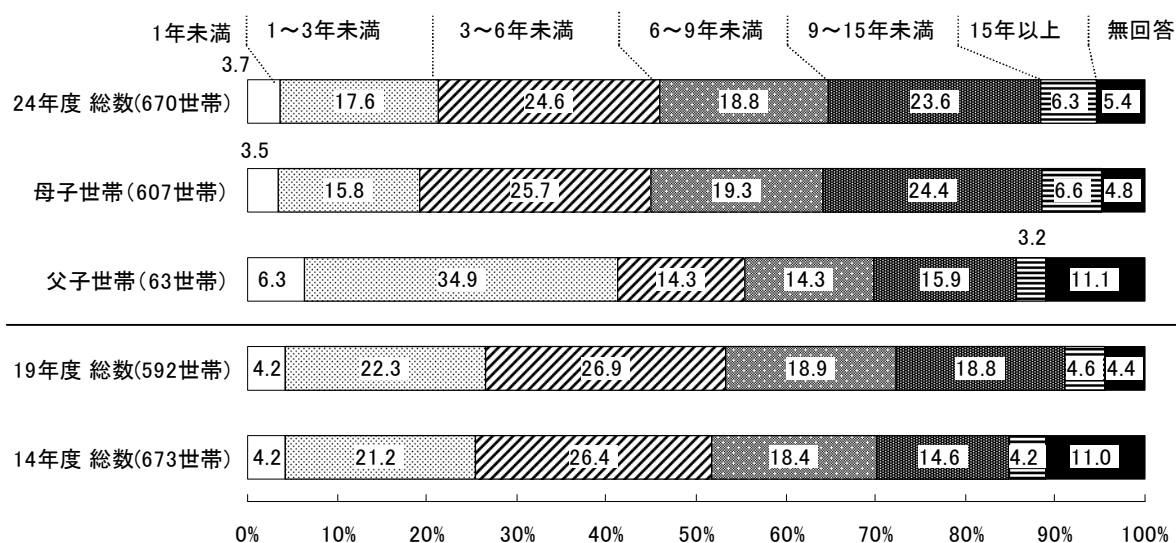
第2章 ひとり親世帯になった当時、現在の状況

1 ひとり親世帯になってからの年数－過去調査との比較

ひとり親になってからの年数は「3～6年未満」の割合が最も高く24.6%、次いで「9～15年未満」の23.6%と続いている。(図Ⅱ-2-1)

問 平成24年10月17日現在で、ひとり親になっておよそ何年になりますか。

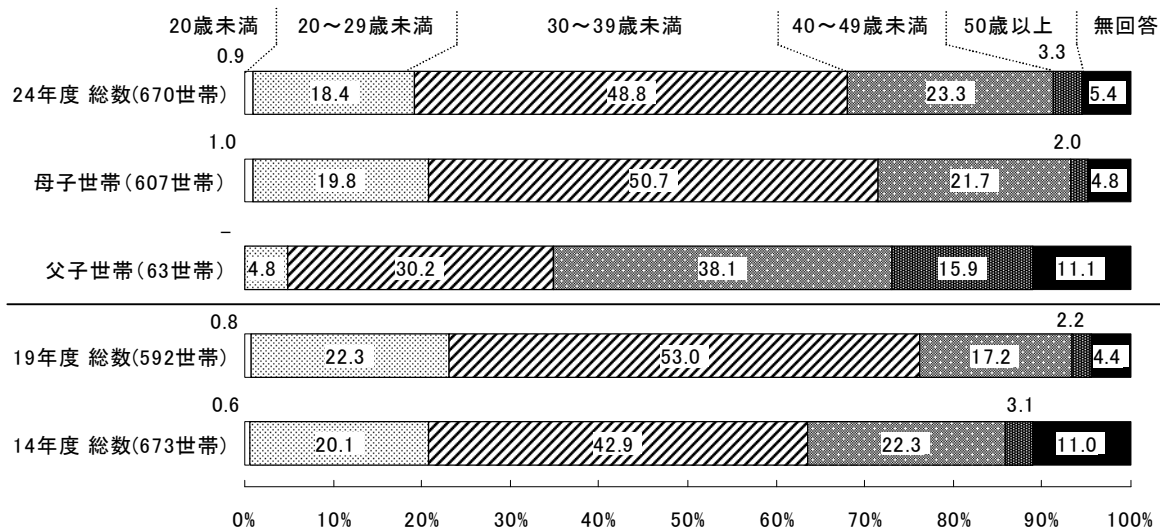
図Ⅱ-2-1 ひとり親世帯になってからの年数－過去調査との比較



2 ひとり親世帯になったときの親の年齢－過去調査との比較

ひとり親になった当時の親の年齢は、「30～39歳未満」の割合が最も高く48.8%、次いで「40～49歳未満」が23.3%と続いている。(図Ⅱ-2-2)

図Ⅱ-2-2 ひとり親世帯になったときの親の年齢－過去調査との比較



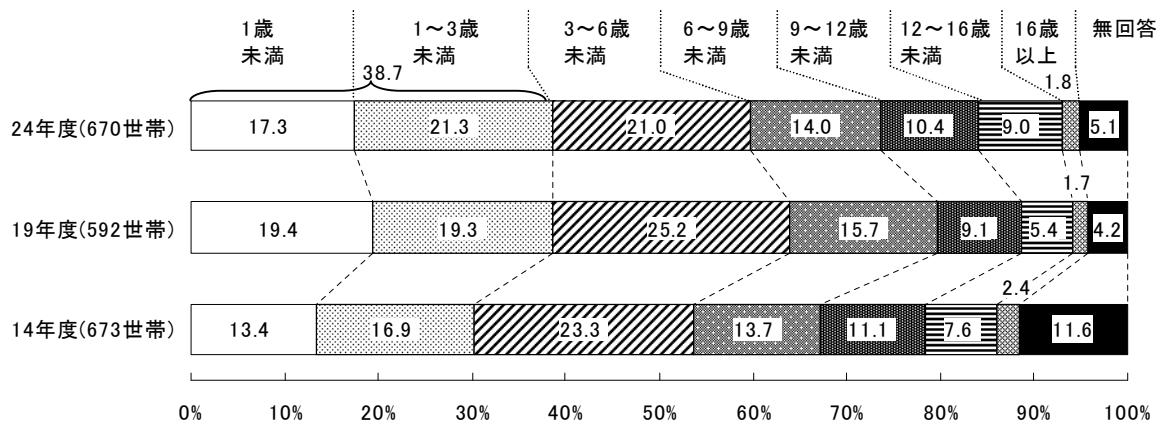
3 ひとり親世帯になったときの1番下の子供の年齢—過去調査との比較

ひとり親になったときの1番下の子供の年齢が「3歳未満」の割合は、4割

ひとり親になった当時の1番下の子供の年齢は、「1～3歳未満」の割合が21.3%と最も高く、次いで、「3～6歳未満」21.0%となっている。また、「1歳未満」と「1～3歳未満」を合わせた3歳未満の割合は38.7%と、約4割となっている。(図Ⅱ-2-3)

問 ひとり親になったとき、1番下のお子さんは何歳でしたか。

図Ⅱ-2-3 ひとり親になったときの1番下の子供の年齢—過去調査との比較



4 ひとり親世帯になった理由

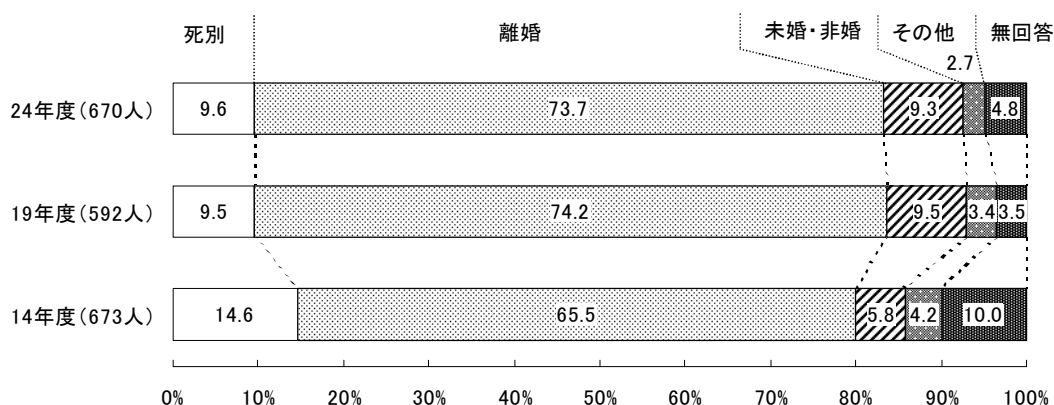
(1) ひとり親世帯になった理由—過去調査との比較

「離婚」によるひとり親の割合は、7割

ひとり親になった理由について聞いたところ、「離婚」の割合が最も高く73.7%となっている。(図Ⅱ-2-4)

問 ひとり親になった理由についてお聞きます。

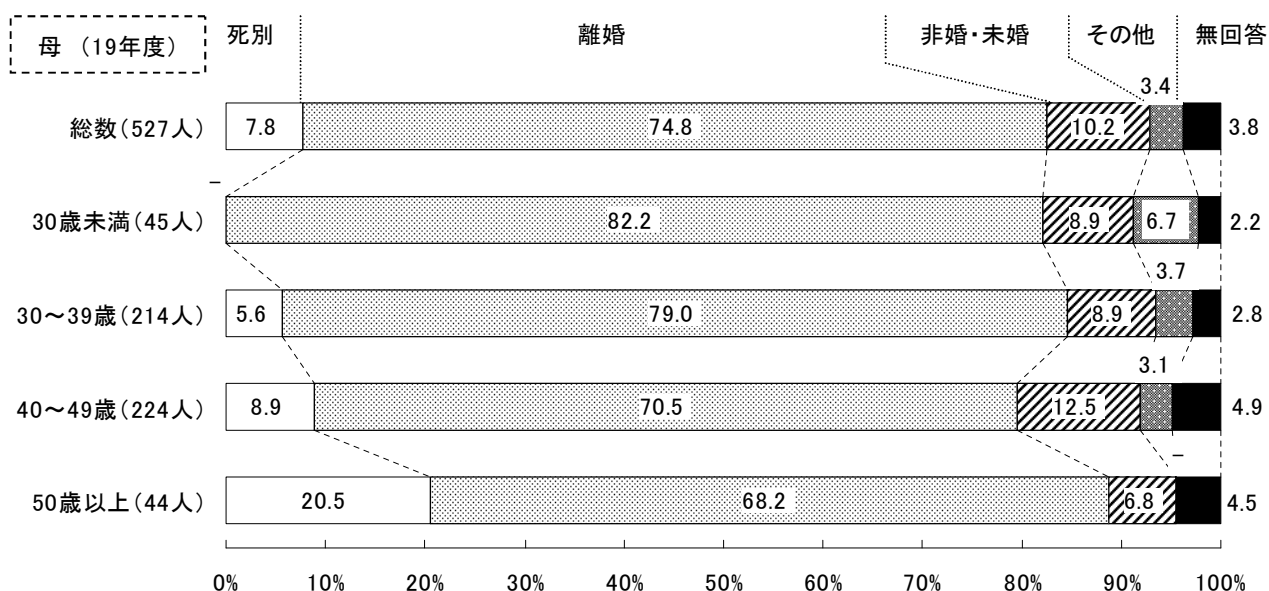
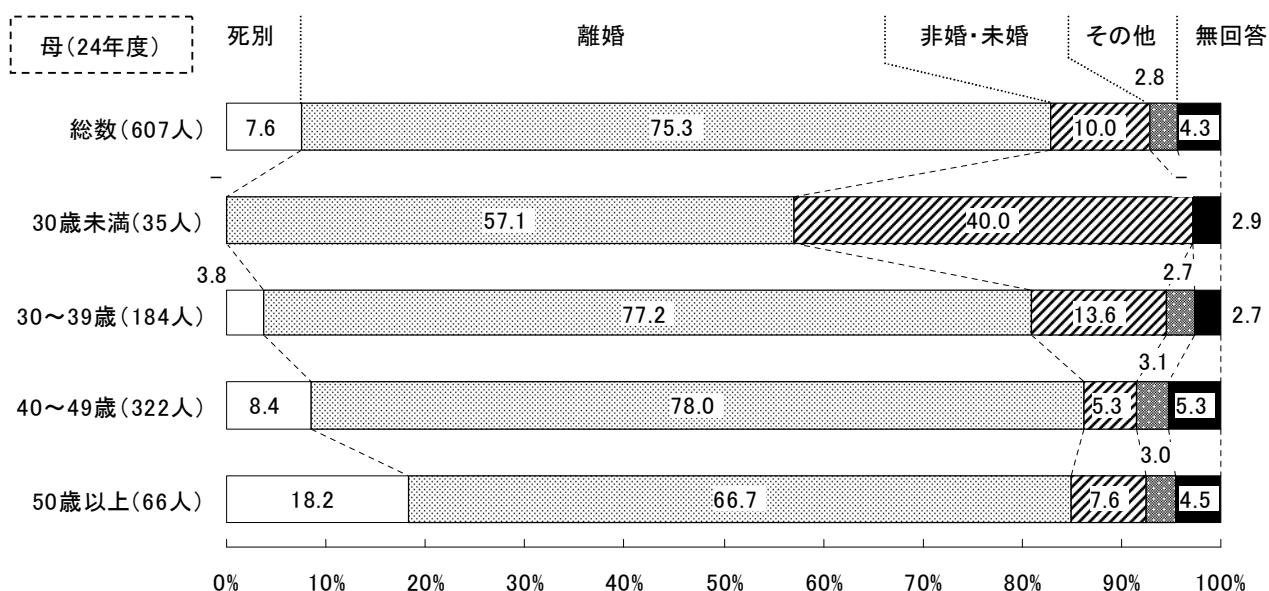
図Ⅱ-2-4 ひとり親世帯になった理由—過去調査との比較



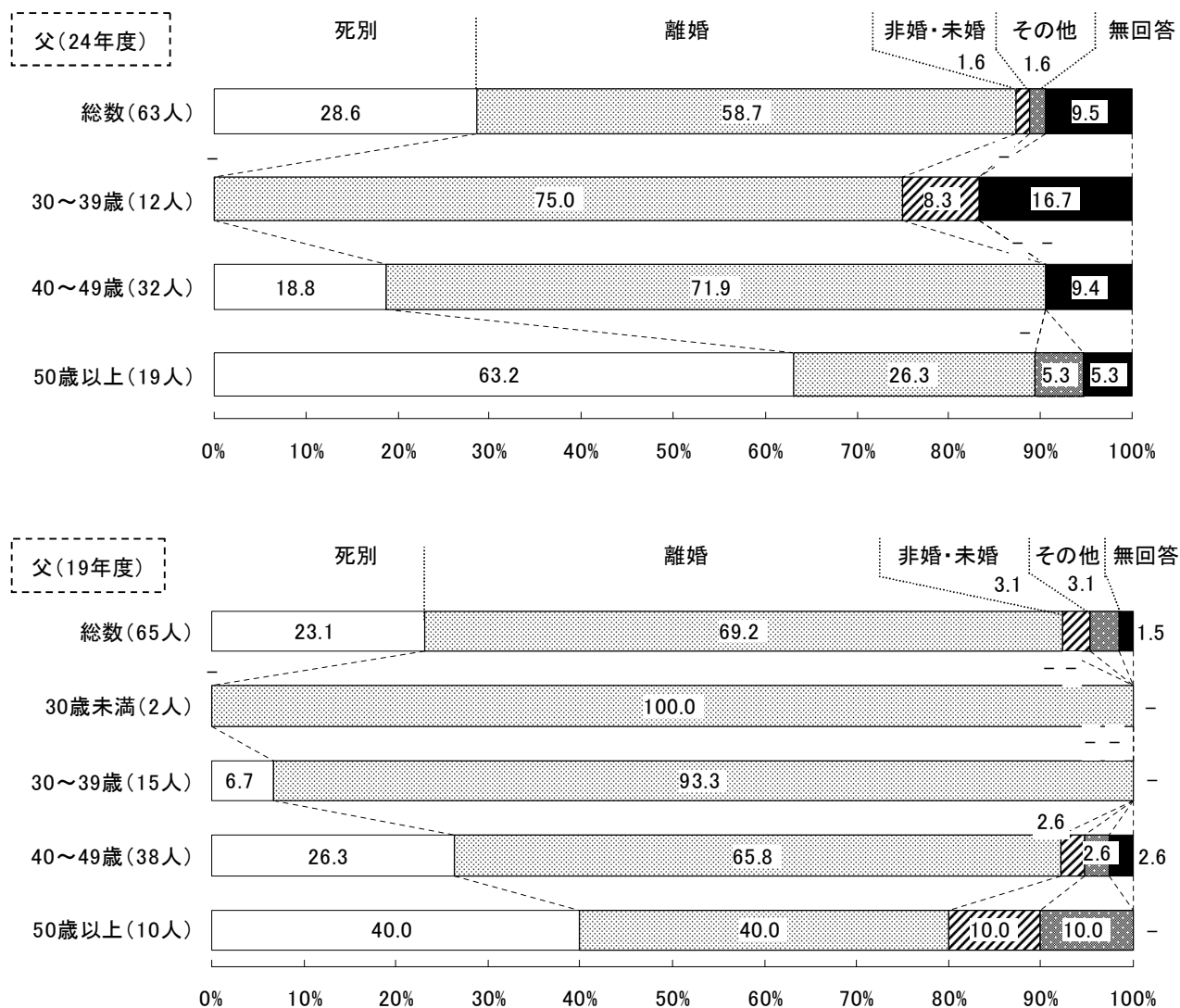
(2) ひとり親世帯になった理由－父母の性・年齢階級別

ひとり親になった理由を父母の性・年齢階級別にみると、父母ともに、「離婚」による割合が最も高く、母親が75.3%、父親が58.7%となっている。また、「死別」による割合は、父親が28.6%であるのに対し、母親は7.6%となっている。(図Ⅱ-2-5、図Ⅱ-2-6)

図Ⅱ-2-5 ひとり親世帯になった理由（母）－母の性・年齢階級別



図Ⅱ-2-6 ひとり親世帯になった理由（父）－父の性・年齢階級別



(注) 24年度は、父親「30歳未満」は、該当なしのため省略した。

5 ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること

(1) ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること〔複数回答〕

暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあったか聞いたところ、82.8%が「あった」と回答した。

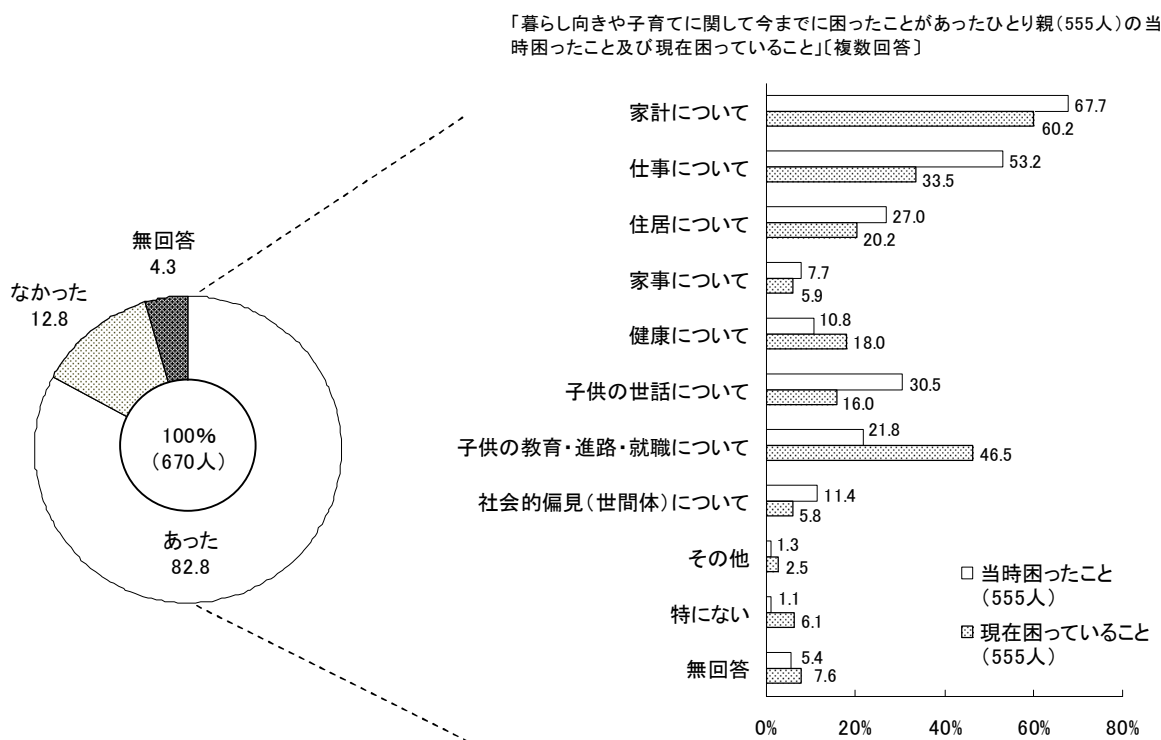
また、「あった」と回答した 555 人にその内容を聞いたところ、「ひとり親になった当時」、「現在」ともに、「家計について」の割合が最も高く、それぞれ 67.7%、60.2%となっている。

「子供の教育・進路・就職について」の割合は、「ひとり親になった当時」では 21.8%であるのに対し、「現在」では 46.5%と高くなっている。(図Ⅱ-2-7)

問 あなたは、暮らし向きのことや子育てに関して今までに何か困ったことがありましたか。

問 あなたがひとり親になったときに困ったことは何ですか？また、現在困っていることは何ですか。

図Ⅱ-2-7 ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること〔複数回答〕



(2) ひとり親世帯になった当時困ったこと〔複数回答〕

－ひとり親になったときの親の年齢別

ひとり親世帯になった当時困ったことについて、ひとり親になったときの親の年齢別にみると、30歳未満のときにひとり親になった人では、他の年齢に比べて、「家計について」(78.1%)と「仕事について」(75.2%)の割合が高くなっている。また、「子供の教育・進路・就職について」の割合は、40歳以上では36.8%と総数(23.3%)に比べて高くなっている。(表Ⅱ-2-1)

表Ⅱ-2-1 ひとり親世帯になった当時困ったこと〔複数回答〕

－ひとり親になったときの親の年齢別

	総数	家計について	仕事について	住居について	家事について	健康について	子供の世話について	子供の教育・進路・就職について	社会的偏見(世間体)	その他
総数	100.0 (519)	72.4	56.8	28.9	8.3	11.6	32.6	<u>23.3</u>	12.1	1.3
30歳未満	100.0 (105)	<u>78.1</u>	<u>75.2</u>	33.3	1.0	8.6	29.5	12.4	14.3	1.0
30～39歳	100.0 (260)	70.8	55.0	30.8	6.9	11.5	35.8	18.8	15.0	1.5
40歳以上	100.0 (144)	70.1	50.0	23.6	15.3	13.9	29.9	<u>36.8</u>	6.3	1.4
19年度調査	100.0 (455)	71.4	51.9	31.9	7.7	13.6	41.3	23.5	12.5	1.3

(注) 総数 519 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 555 人のうち、ひとり親になった当時困ったことがあったと回答したもの(ひとり親になった当時は困ったことは特になかった 6 人と無回答の 30 人は除く。)

(3) ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父母の年齢別

ひとり親世帯になって現在困っていることを父母の年齢別にみると、いずれの年齢層でも、「家計について」の割合が最も高くなっている。(表Ⅱ-2-2)

また、19年度調査と比べて、40～49歳では、「家計について」(19年度 59.2%、24年度 70.4%)と、「仕事について」(19年度 28.8%、24年度 40.8%)の割合が、それぞれ10ポイント以上高くなっている。(表Ⅱ-2-2)

表Ⅱ-2-2 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父母の年齢別

24年度										
	総数	家計について	仕事について	住居について	家事について	健康について	子供の世話について	子供の教育・進路・就職について	社会的偏見（世間体）について	その他
総数	100.0 (479)	69.7	38.8	23.4	6.9	20.9	18.6	53.9	6.7	2.9
30歳未満	100.0 (27)	81.5	51.9	18.5	-	18.5	14.8	29.6	11.1	3.7
30～39歳	100.0 (134)	70.9	38.1	23.9	4.5	25.4	26.1	50.0	9.7	0.7
40～49歳	100.0 (260)	70.4	40.8	24.2	6.9	18.5	16.9	58.8	5.4	3.1
50歳以上	100.0 (58)	58.6	25.9	20.7	15.5	22.4	10.3	51.7	3.4	6.9

(注) 総数 479 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 555 人のうち、現在困っていることがあると回答したもの（現在は、困っていることは特にない 34 人と無回答の 42 人は除く。）。

19年度										
	総数	家計について	仕事について	住居について	家事について	健康について	子供の世話について	子供の教育・進路・就職について	社会的偏見（世間体）について	その他
総数	100.0 (427)	66.0	31.4	24.6	9.4	23.0	23.2	51.5	4.9	2.8
30歳未満	100.0 (38)	78.9	44.7	42.1	10.5	13.2	26.3	28.9	7.9	-
30～39歳	100.0 (169)	70.4	32.5	26.0	8.9	17.8	28.4	47.9	4.7	1.8
40～49歳	100.0 (184)	59.2	28.8	21.2	8.7	26.1	20.1	58.2	4.9	4.3
50歳以上	100.0 (36)	66.7	25.0	16.7	13.9	41.7	11.1	58.3	2.8	2.8

(注) 総数 427 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 500 人のうち、現在困っていることがあると回答したもの（現在は、困っていることは特にない 33 人と無回答の 40 人は除く。）。

(4) ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

ひとり親世帯になって現在困っていることについて、母親の従業上の地位別にみると、正規の職員・従業員、パート・アルバイトどちらも、「家計について」の割合が最も高くなっている（正規の職員・従業員 64.4%、パート・アルバイト 79.2%）（表Ⅱ-2-3）

表Ⅱ-2-3 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－母の従業上の地位別

	総 数	家 計 に つ い て	仕 事 に つ い て	住 居 に つ い て	家 事 に つ い て	健 康 に つ い て	子 供 の 世 話 に つ い て	子 供 の 教 育 ・ 進 路 ・ 就 職	社 会 的 偏 見 （ 世 間 体 ）	そ の 他
総数	100.0 (449)	72.6	39.4	24.5	4.2	21.4	17.1	52.8	6.9	3.1
就 業	100.0 (391)	73.9	37.3	24.6	4.6	19.4	17.4	52.2	6.9	3.1
自営業	100.0 (22)	86.4	36.4	27.3	－	22.7	27.3	31.8	9.1	4.5
正規の職員・従業員	100.0 (135)	<u>64.4</u>	23.7	20.7	8.9	16.3	25.9	49.6	11.1	2.2
会社・団体等の役員	100.0 (2)	50.0	－	100.0	50.0	－	－	50.0	－	－
パート・アルバイト	100.0 (173)	<u>79.2</u>	50.3	24.3	0.6	24.9	13.3	57.8	4.0	2.9
労働者派遣事業所の 派遣社員	100.0 (18)	88.9	27.8	33.3	－	22.2	5.6	38.9	－	5.6
契約社員・嘱託、その他	100.0 (37)	67.6	29.7	27.0	8.1	5.4	8.1	59.5	8.1	5.4
非就業	100.0 (55)	61.8	54.5	23.6	－	36.4	16.4	56.4	7.3	3.6

（注）総数 449 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 555 人のうち、現在困っていることがあると回答した母 449 人（父 42 人と、現在は、困っていることは特になく母 28 人と無回答の母 36 人は除く。）。

(5) ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父親の従業上の地位別

父親がひとり親世帯になって現在困っていることは、「子供の教育・進路・就職について」の割合が最も高く 70.0%、次いで、「家事について」の 46.7%と続いている。(表Ⅱ-2-4)

表Ⅱ-2-4 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父親の従業上の地位別

	総 数	家 計 に つ い て	仕 事 に つ い て	住 居 に つ い て	家 事 に つ い て	健 康 に つ い て	子 供 の 世 話 に つ い て	子 供 の 教 育 ・ 進 路 ・ 就 職 に つ い て	社 会 的 偏 見 (世 間 体 に つ い て)	そ の 他
総数	100.0 (30)	26.7	30.0	6.7	46.7	13.3	40.0	70.0	3.3	-
就 業	100.0 (27)	25.9	29.6	3.7	44.4	14.8	40.7	66.7	3.7	-
自営業	100.0 (4)	25.0	50.0	-	50.0	-	-	25.0	25.0	-
正規の職員・従業員	100.0 (19)	21.1	21.1	-	47.4	10.5	57.9	78.9	-	-
会社・団体等の役員	100.0 (1)	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-

(注) 総数 30 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 555 人のうち、現在困っていることがあると回答した父 30 人(母 513 人、現在は、困っていることは特になく父 6 人と無回答の父 6 人は除く。)

(注) 非就業は、該当者がいないため省略した。また、従業上の地位で、該当者が 1 人又は該当者がいないものは省略した。

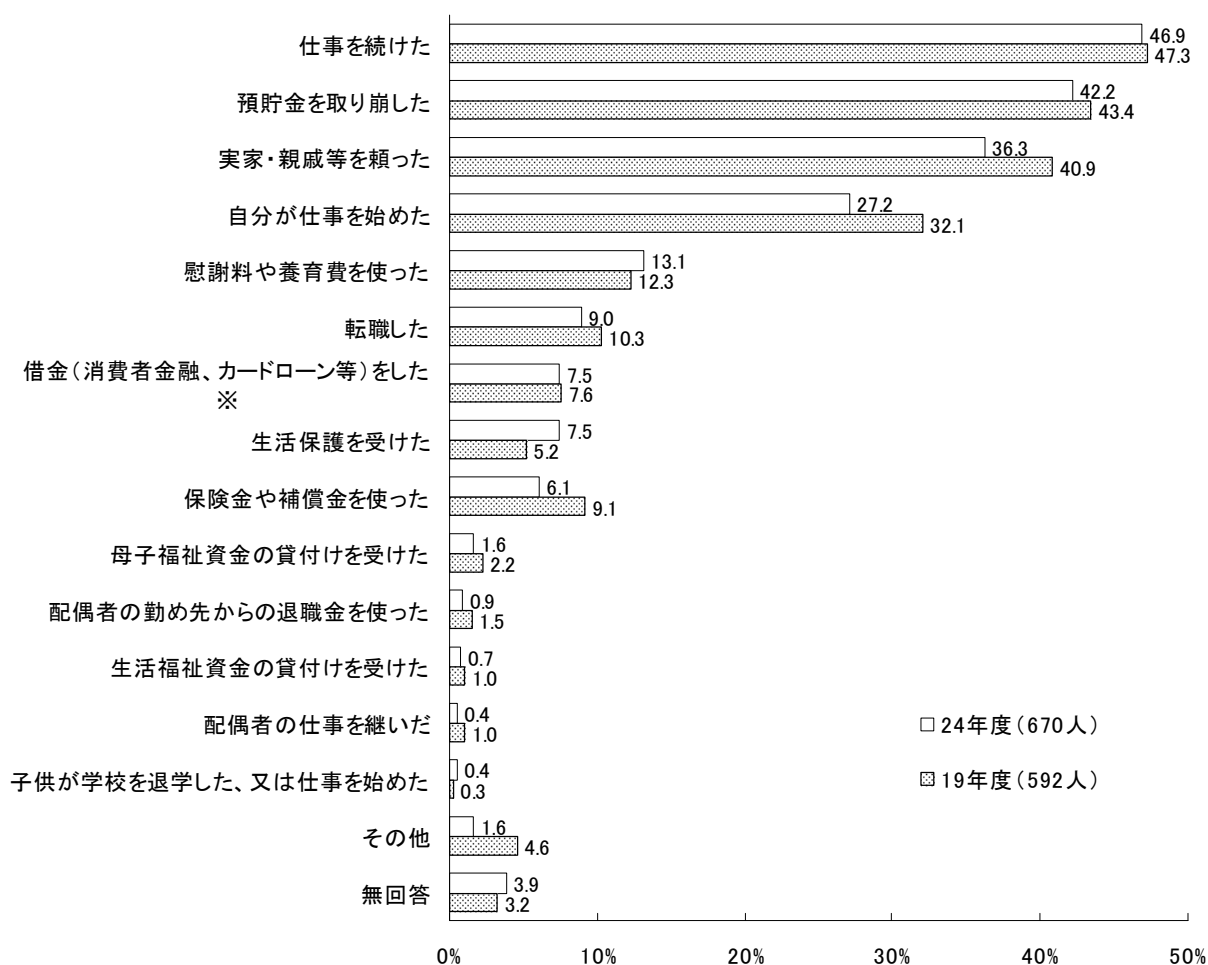
6 ひとり親世帯になった当時暮らしのためにしたこと

(1) ひとり親になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕－19年度調査との比較

ひとり親になった当時、暮らしを立てる上でどうしたか聞いたところ、「仕事を続けた」の割合が最も高く 46.9%、次いで「預貯金を取り崩した」の 42.2%となっている。(図Ⅱ-2-8)

あなたは、ひとり親世帯になった当時、暮らしを立てる上で、どうされましたか。

図Ⅱ-2-8 ひとり親になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕－19年度調査との比較



(注) 19年度調査では、※は「借金(サラ金、カードローン等)をした」としていた。

(2) ひとり親世帯になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕

－ひとり親世帯になったときの1番下の子供の年齢別

ひとり親になった当時暮らしのためにしたことについて、ひとり親になったときの1番下の子供の年齢別にみると、「1～3歳未満」では、「預貯金を取り崩した」の割合が50.3%と最も高く、次いで、「実家・親戚等を頼った」が47.6%となっている。また、12歳以上では、「仕事を続けた」の割合が65.3%と最も高くなっている。(表Ⅱ-2-5)

表Ⅱ-2-5 ひとり親になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕

－ひとり親世帯になったときの1番下の子供の年齢別

	総 数	仕 事 を 続 け た	配 偶 者 の 仕 事 を 継 い だ	自 分 が 仕 事 を 始 め た	子 供 が 学 校 を 退 学 し た 、 又 は 仕 事 を 始 め た	預 貯 金 を 取 り 崩 し た	配 偶 者 の 勤 め 先 か ら の 退 職 金 を 使 っ た	転 職 し た	慰 謝 料 や 養 育 費 を 使 っ た	保 険 金 や 補 償 金 を 使 っ た	実 家 ・ 親 戚 等 を 頼 っ た	受 け た 母 子 福 祉 資 金 の 貸 付 け を	受 け た 生 活 福 祉 資 金 の 貸 付 け を	借 金 （ 消 費 者 金 融 、 カ ー ド ロ ー ン 等 ） を し た ※	生 活 保 護 を 受 け た	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (670)	46.9	0.4	27.2	0.4	42.2	0.9	9.0	13.1	6.1	36.3	1.6	0.7	7.5	7.5	1.6	3.9
1歳未満	100.0 (116)	40.5	－	22.4	－	40.5	－	6.9	3.4	3.4	44.0	0.9	－	10.3	7.8	3.4	2.6
1～3歳未満	100.0 (143)	39.9	－	40.6	0.7	<u>50.3</u>	0.7	7.7	16.8	2.1	<u>47.6</u>	2.1	0.7	7.0	7.7	0.7	0.7
3～6歳未満	100.0 (141)	45.4	0.7	36.2	0.7	40.4	1.4	10.6	16.3	5.0	33.3	2.1	0.7	7.1	9.9	1.4	0.7
6～9歳未満	100.0 (94)	53.2	－	23.4	－	50.0	－	8.5	14.9	10.6	29.8	3.2	1.1	5.3	5.3	1.1	1.1
9～12歳未満	100.0 (70)	61.4	－	14.3	－	41.4	1.4	12.9	21.4	11.4	31.4	1.4	－	5.7	5.7	1.4	－
12歳以上	100.0 (72)	<u>65.3</u>	2.8	13.9	1.4	31.9	2.8	11.1	9.7	12.5	27.8	－	2.8	6.9	9.7	2.8	－
19年度調査	100.0 (592)	47.3	1.0	32.1	0.3	43.4	1.5	10.3	12.3	9.1	40.9	2.2	1.0	7.6	5.2	4.6	3.2

(注) 19年度調査では、※は「借金（サラ金、カードローン等）をした」としていた。

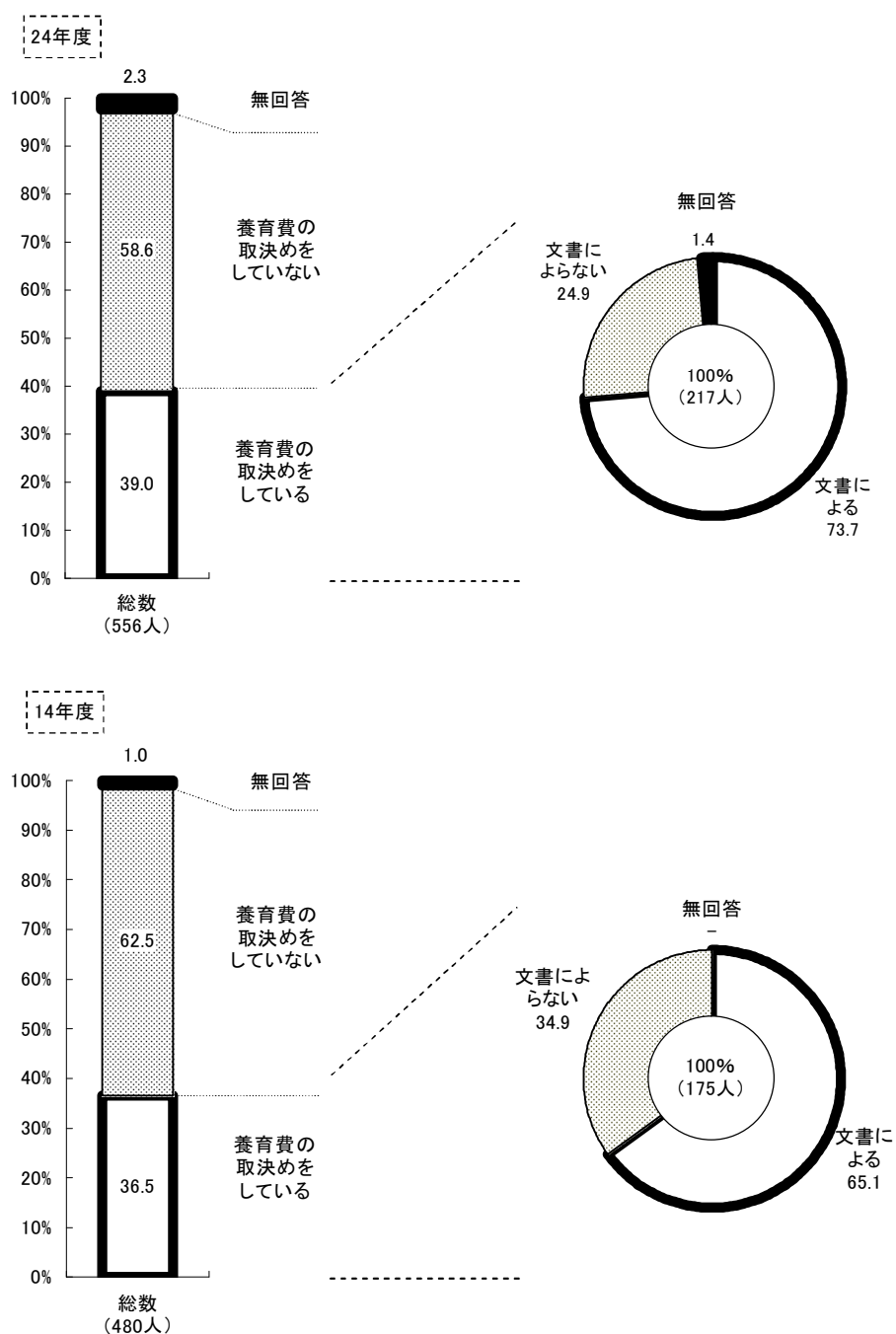
第3章 養育費について

1 養育費取決めの有無及び養育費の取決めは文書によるか

(1) 養育費取決めの有無及び養育費の取決めは文書によるかー14年度調査との比較

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である556人に、離別した子供の母親又は父親と養育費の取決めをしているか聞いたところ、「養育費の取決めをしている」が39.0%となっている。さらに養育費の取決めをしている217人に、文書による取決めか聞いたところ、「文書による」が73.7%となっている。(図Ⅱ-3-1)

図Ⅱ-3-1 養育費取決めの有無及び養育費の取決めは文書によるかー14年度調査との比較

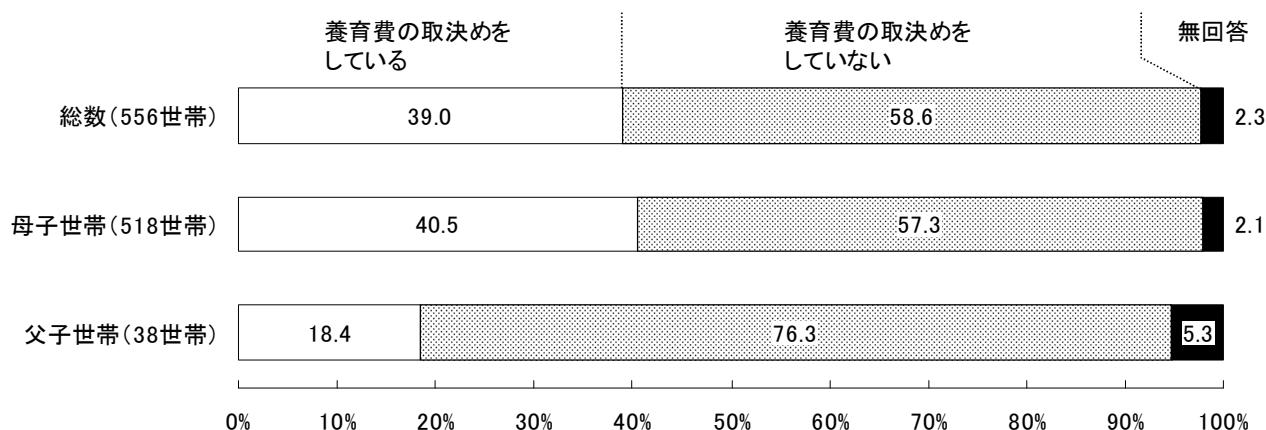


(注) 19年度調査では、この設問について調査を行っていない。

(2) 養育費取決めの有無―世帯類型（母子・父子世帯）別

養育費取決めの有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「養育費の取決めをしている」割合は、母子世帯が40.5%で、父子世帯（18.4%）に比べて22.1ポイント高くなっている。（図Ⅱ-3-2）

図Ⅱ-3-2 養育費取決めの有無―世帯類型（母子・父子世帯）別



(3) 養育費取決めの有無―ひとり親になってからの年数別

養育費取決めの有無を、ひとり親になってからの年数別にみると、「養育費の取決めをしている」割合は、ひとり親になってから3～6年未満では46.6%と、総数（39.0%）に比べて高くなっている。（表Ⅱ-3-1）

表Ⅱ-3-1 養育費取決めの有無―ひとり親になってからの年数別

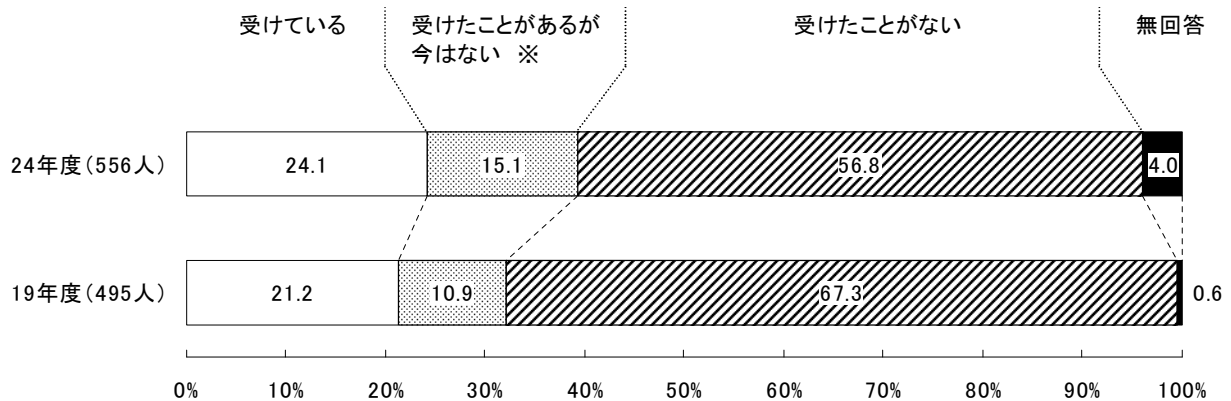
	総 数	し養 て育 い費 るの 取 決 め を	し養 て育 い費 ない 取 決 め を	無 回 答
総数	100.0 (556)	39.0	58.6	2.3
1年未満	100.0 (18)	50.0	50.0	-
1～3年未満	100.0 (94)	40.4	57.4	2.1
3～6年未満	100.0 (146)	46.6	52.1	1.4
6～9年未満	100.0 (107)	43.0	54.2	2.8
9～15年未満	100.0 (143)	31.5	66.4	2.1
15年以上	100.0 (40)	25.0	70.0	5.0
無回答	100.0 (8)	12.5	75.0	12.5

2 養育費受取の有無

(1) 養育費受取の有無－19年度調査との比較

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である 556 人に、離別した子供の母親又は父親から養育費を受けているか聞いたところ、「受けている」が 24.1%となっている。(図Ⅱ-3-3)

図Ⅱ-3-3 養育費受取の有無－19年度調査との比較



(注) 19年度調査では、※は「受けたことがある」としていた。

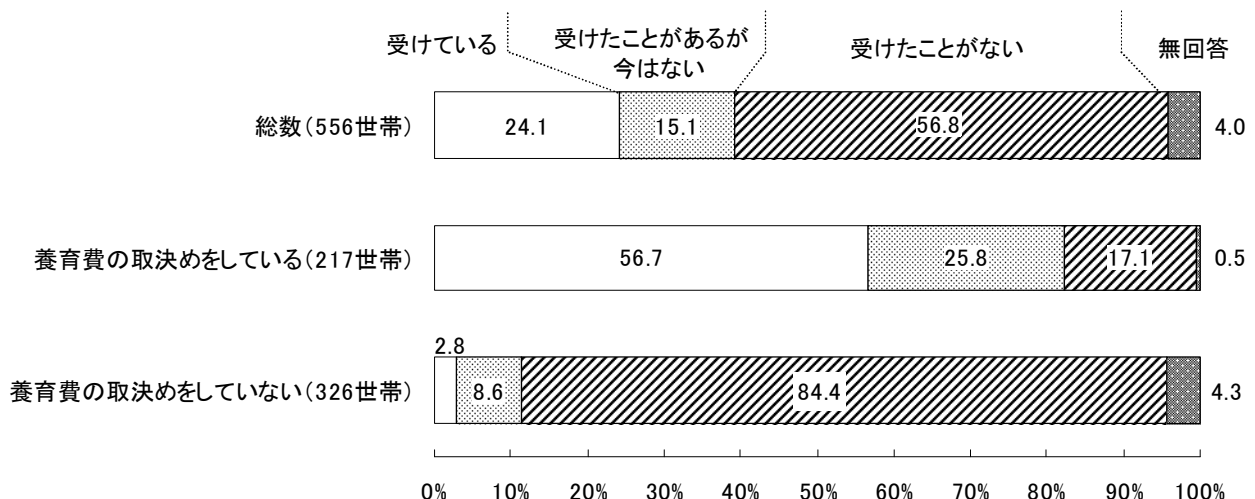
(注) 東京都では、養育費の取得率向上を図ることなどを目的とし、平成 20 年度から養育費相談体制の拡充を図っている。

(2) 養育費受取の有無－養育費取決めの有無別

養育費を受けているかについて、養育費の取決めの有無別にみると、養育費の取決めをしている世帯では、「(養育費を) 受けている」の割合が 56.7%であるのに対して、養育費の取決めをしていない世帯では、「(養育費を) 受けている」が 2.8%と非常に少なくなっている。

(図Ⅱ-3-4)

図Ⅱ-3-4 養育費受取の有無－養育費取決めの有無別

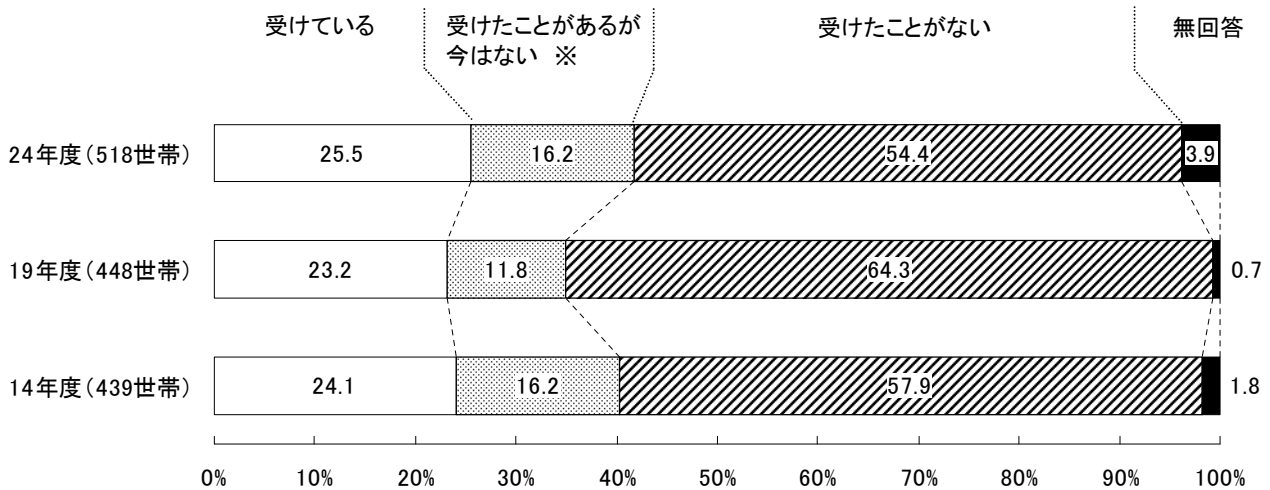


(3) 養育費受取の有無（母子世帯）－過去調査との比較

母子世帯で養育費を「受けたことがない」割合は、前回調査より減少

養育費受取の有無（母子世帯）をみると、「受けたことがない」の割合は 54.4%で、19 年度調査（64.3%）に比べて減少している。（図Ⅱ-3-5）

図Ⅱ-3-5 養育費受取の有無（母子世帯）－過去調査との比較

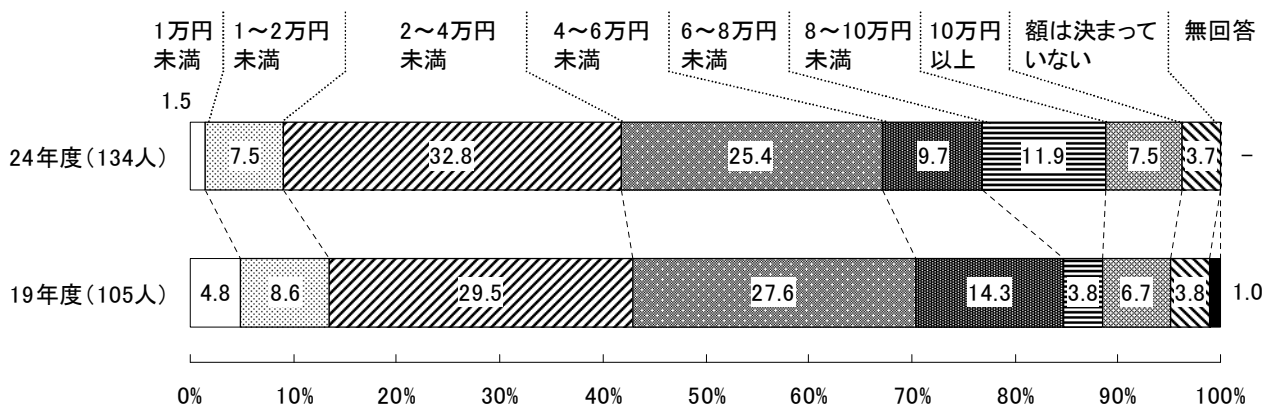


(注) 19 年度、14 年度調査では、※は「受けたことがある」としていた。

3 1 か月の養育費の額－19 年度調査との比較

養育費を「受けている」と回答した 134 人に 1 か月の金額を聞いたところ、「2 万～4 万円未満」の割合が 32.8%と最も高く、次いで、「4～6 万円」が 25.4%と続いている。（図Ⅱ-3-6）

図Ⅱ-3-6 1 か月の養育費の額－19 年度調査との比較



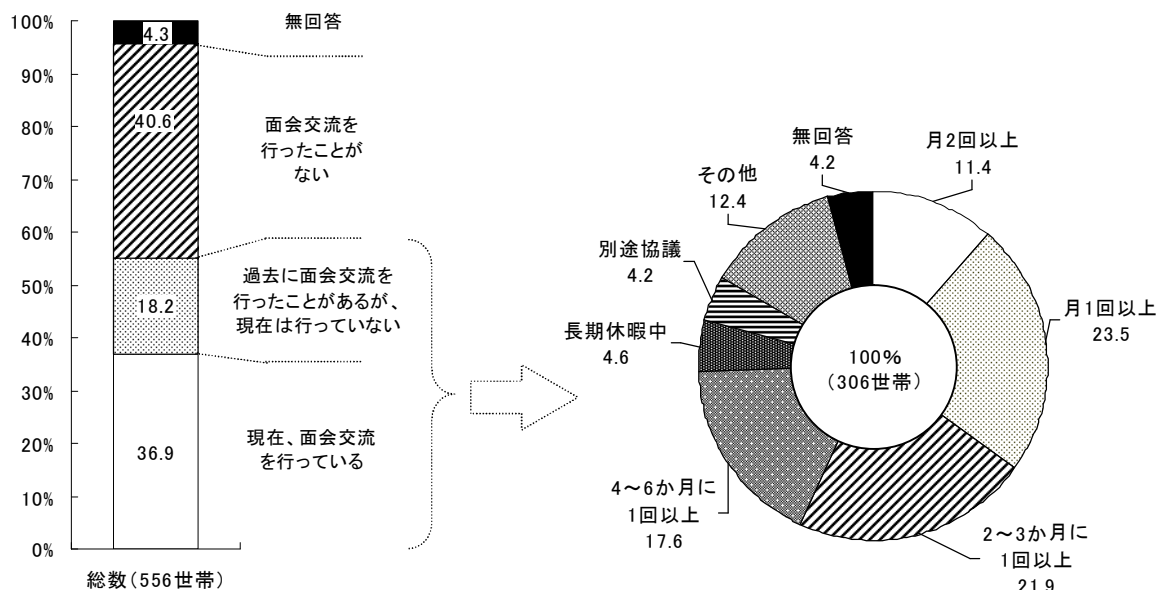
4 面会交流の有無と頻度

(1) 面会交流の有無と頻度

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である 556 世帯に、離別した子供の母親又は父親と、子供との面会交流を行っているか聞いたところ、「現在、面会交流を行っている」が 36.9% となっている。

さらに「現在、面会交流を行っている」と「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」を合わせた 306 世帯に、面会交流の頻度を聞いたところ、「月 1 回以上」が最も高く 23.5% となっている。(図Ⅱ-3-7)

図Ⅱ-3-7 面会交流の有無と頻度

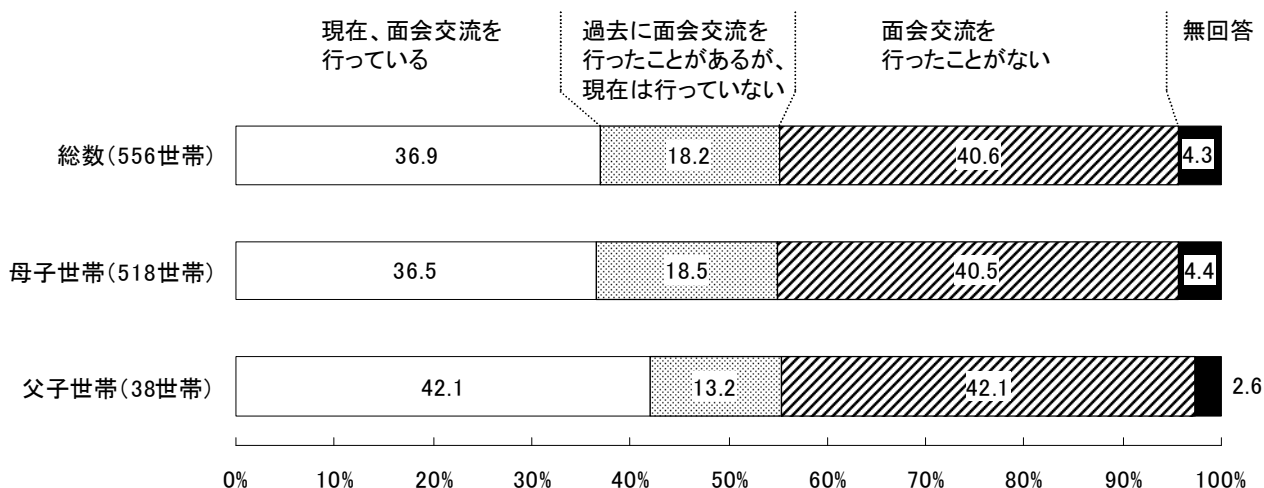


※民法等の一部を改正する法律（平成23年法律第61号）が成立し、民法第766条の子の監護について必要な事項の例として「父又は母との面会及びその他の交流」が明示された。

(2) 面会交流の有無－世帯類型（母子・父子世帯）別

面会交流の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では「面会交流を行ったことがない」が40.5%で最も高く、父子世帯では「現在面会交流を行っている」と「面会交流を行ったことがない」がそれぞれ42.1%と同じ割合となっている。（図Ⅱ-3-8）

図Ⅱ-3-8 面会交流の有無－世帯類型（母子・父子世帯）別



(3) 面会交流の有無－養育費取決めの有無別

面会交流の有無を養育費取決めの有無別にみると、「現在、面会交流を行っている」割合は、「養育費の取決めをしている」場合が52.5%で、「養育費の取決めをしていない」場合（27.9%）に比べて24.6ポイント高くなっている。（図Ⅱ-3-9）

図Ⅱ-3-9 面会交流の有無－養育費取決めの有無別

